

## 第4班

# 日本近世生活絵引—琉球人行列と江戸—

### (1) 共同研究員名

研究代表者：小熊誠

共同研究員：駒走昭二

客員研究員：渡辺美季 富澤達三

研究協力者：得能壽美 小島摩文 橋口亘 上原兼善 高津孝 丹羽謙治

### (2) 研究目的

日本の近世は参勤交代・朝鮮使節・琉球使節等の行列が定期的に列島を往来する「行列の時代」であった。鹿児島大学附属図書館蔵の「琉球人行粧之図」・「琉球人往来筋賑之図」は、1850年の薩摩藩主の参勤交代および琉球使節の行列の様子と江戸の街並みなどを、江戸勤番中の宇和島藩士・上月行敬が描いたもので（丹羽謙治「上月行敬筆『琉球人行粧之図』『琉球人往来筋賑之図』について：鹿児島大学附属図書館本と鹿児島県立図書館本のあいだ」『雅俗』16、2017年参照）、近世人の生活の一部であった「行列および行列を迎える都市空間の様相」を分析・研究し得る好素材であると同時に、日本近世生活絵引の奄美・沖縄編、南九州編の研究蓄積を発展的に継続し得る貴重な素材でもある。本研究では、この図を用いて日本近世生活絵引「行列から見る都市生活空間編（仮題）」を作成することを目的とする。また必要に応じて関連する絵画類も検討する。

### (3) 活動経過（目的達成のための方法、各年度の研究・調査経過、成果の公開状況等）

#### ① 2017年度の活動経過

・第1回研究会（9月8-9日）を鹿児島にて実施した。鹿児島大学附属図書館における「琉球人行粧之図」・「琉球人往来筋賑之図」の熟覧調査、丹羽謙治による当該絵巻についての研究報告、鹿児島県立図書館における当該絵巻の大正期の写本「琉球人行粧之図」3巻の熟覧調査を行った。

・第2回研究会（3月11日）を非文字資料研究センターにて実施した。琉球使節行列に関する絵画類および江戸を描いた絵画類と比較して「琉球人行粧之図」・「琉球人往来筋賑之図」の特徴を明らかにした上で、今回の絵引の構成を検討した。

#### ② 2018年度の活動経過

・第1回研究会（9月22-23日）を非文字資料研究センターにて実施した。共同研究員それぞれが作成した担当場面の絵引原案に対する検討を行った。

・第2回研究会(3月2-3日)を東京・神奈川にて実施した。まず絵巻に描かれた芝口町付近や宇和島藩伊達家の上屋敷跡を巡見した後、東京大学教養学部および非文字資料研究センターにて各自の絵引案のさらなる検討を行った。

### ③ 2019年度の活動経過

・第1回研究会(8月30-31日)を鹿児島にて実施した。鹿児島大学附属図書館にて「琉球人行粧之図」・「琉球人往来筋脈之図」を再度熟覧し、作成中の絵引との比較対照を行った。また関連資料も調査した。その後、絵引の完成に向け全データの検討を行い、琉球使節研究の第一人者である横山學先生(ノートルダム清心女子大学名誉教授)にご専門の立場からコメントやアドバイスをいただいた。また熟議のすえ、絵引の内容にあわせて班名を改め、「日本近世生活絵引—琉球人行列と江戸—」と変更することにした。

・第2回研究会(2月29日-3月1日)を非文字資料研究センターにて実施した。印刷会社に入稿を済ませた絵引原稿の再校を全員で検討した。

### ④ 成果報告書の刊行

・2020年3月20日付けで第四期研究成果報告書として『日本近世生活絵引 琉球人行列と江戸編』を刊行した。

## (4) 研究成果(成果物、獲得された知見、収集資料の解題等)

第二期「奄美・沖縄編」、第三期「南九州編」を発展的に継承し得る稀有な素材として、これまで詳細に検討されたことのない鹿児島大学附属図書館所蔵「琉球人行粧之図」・「琉球人往来筋脈之図」を詳細に分析し、絵引を作成することができた。今回の絵引研究の特性としては、①文学の専門家2名の協力により文学の視点を取り入れたこと、②資料の熟覧調査だけでなく、絵巻に描かれた地域の現地調査も実施し、その成果を反映させたこと、③今まで以上に多角的なテーマで10編もの「解題と考察」を収録したことなどが挙げられる。こうした点を通じて、近世日本の行列をめぐる生活文化の一断面を、琉球・薩摩・江戸を繋ぐような形で示し、生活絵引の可能性をさらに深め得たと自負している。

## (5) 今後の課題と展望(自己点検・評価)

次年度は成果刊行物(絵引)の普及につとめつつ、研究成果の公開研究会を開催する予定である。絵引の校正作業中に、所在が不明であったため写本にて絵引を作成した「琉球人行粧之図」巻1の原本が発見され、付録として画像と簡単な解説のみ絵引に納めたものの、本格的な検討はできなかった。この1巻の内容分析を多少なりとも進め、その成果も合わせた形で公開研究会を行うことを目指したい。